

## 奥宮慥齋日記——明治時代の部(九)——

島 善 高

### 解題

本稿には、奥宮慥齋日記のうち、明治八年一月一日から同年十二月三十日までを翻刻した。架蔵番号は次の通りである。

○「日録、明治八年九年日記、明治八年一月〜九年十一月二十

四日」(高知市民図書館「奥宮文庫」、受入番号七一五七)

慥齋は、明治八年になると、胃腸病が相当に酷くなってきたおり、日記の端々に病状と投薬の様子が記されている。それにも拘わらず慥齋は、飲酒の習慣を絶ってはいない。よほど酒が好きであったのであろう。

さて、明治八年の日記で注目すべき第一は、表紙見返しに「小石川江戸川町十七番地、中村正直」「西小川町西北ノ角真言宗教務院ノ北半丁計ノ角、順天求舎舎ノ北、西周助」と、著業であった中村

と西の住所氏名を録していることである。また慥齋は、九月二十二、二十三、二十四日には福沢諭吉の『文明論之概略』を読み、十一月一日には、芝西養軒の演舌会で福沢諭吉の話を知っている。このように慥齋は、和漢の学問をすると同時に、中村・西・福沢ら、西洋思想の紹介者たちにも注意を払っていた。しかし慥齋は、十月二十一日条に「題文明概論」と題して

底浅き三田の水かけ論ひ 打かへすへき人さへそなき  
と詠んでいるように、彼らの説を盲目的に受け取っていたわけではない。

これまでの日記で明らかのように、慥齋の思想の根底には、伝統的な和漢の学問、そして神儒仏の伝統的宗教があった。慥齋は、例のごとく自宅に書生を集めて、『論語』(七月十一日)、『中庸』(十一月十七日)などを読んだ他、『伝習録』(九月二十七日・十月二

日・同七日・同十二日・同二十七日・十一月二日・同十七日・同二十二日・十二月七日）、『莊子』（六月八日・同十三日・同十九日・同二十八日・九月十四日・同十九日・同二十四日・十月四日・同九日・同二十四日・同二十九日・十一月四日・同九日・同十四日・同十七日・十二月九日・同十四日）を読む会も開催している。この『莊子』の会に中江兆民や植木枝盛が出席していたことは、既に拙稿で紹介した（『鉄舟と兆民と梧陰と』梧陰文庫研究会編『井上毅とその周辺』一七〇頁以下）。

次に、明治八年一月十二日、慥齋は初めて伊達自得と会い、以後一月十八日・三月十一日・四月二十二日・六月三日・同二十八日・八月二十七日・九月一日・同二十一日・十月六日・同十一日・同十六日の各条に伊達自得の名を書きとどめていることも注目すべきである。伊達自得は、名を千広（また宗広）と言い、紀州和歌山出身の国学者で、『大勢三転考』の著者がある。明治以降、和歌禅道を創始したことで知られている。陸奥宗光は、彼の六男である。

慥齋は、この伊達自得と意気投合、臨済宗総覺長となって山口から上京し、湯島の麟祥寺にいた今北洪川に共に参禅し、遂には洪川を盟主と仰いで両忘社という禅会を開始した。慥齋は明治八年十月一日、洪川から「隻手音声」の公案を授けられたが、十一月三十日には二女の阿鶴や婢の静も参禅させ、洪川から公案を授けられるほどであった。「皆豁然有所省、可喜々々」と記し、また「十方世界儘縦横、迷霧晴來乾闥城、認識龐家真樂處、団欒聚首說無生」と詠んでいるように、このころの慥齋は、まさに禅に没頭していたので

あった。

〔表紙〕

〔明治八年九年日記〕

乙亥日録 明治八年

丙子 至九年〕

〔表紙裏〕

八月一日ヨリ柳下薬散剂

四日迄

小石川江戸川町十七番地 中村正直

美倉橋北詰元久右衛門町壹丁目八番地 高橋安彦

西小川町西北ノ角真言宗教務院ノ北半丁計ノ角、順天求合舎ノ北

西周助

上楨町十七番寄宿、高知 武田信恭

上六番町廿六番、寄留 竹下直綱

猿楽丁六番地 中沢

九月廿四日夕来子一月廿日迄返弁筈

根岸五行松ノ向ノ烟草屋

弥左衛門町九番地金子方 三宅憲章

弥左衛門丁十三番 中尾捨吉

外神田山本丁六番地 斉藤某

〔明治八年一月〕

乙亥明八日抄 一月大

一日、晴、無事、告官不朝

二日、晴、乘醉出遊

三日

四日、秦事始、不出

五日

六日、陰、寒、訪英人サトフ

七日、出省、無事

八日

九

十日、又告疾

(十一日欠)

十二日、始訪自得翁于下谷池端、暫話、適意

十三、末女感冒、乞柳下診

十四日

十五日、出遊

十六

十七、稟月給、此間養痾、無可記

(十八日から二十六日までの条無し)

廿七、出省、早退

念八、暴瀉、十四五行、又告官

廿九、瀉未已

三十、呻吟衾中

三十一、猶昨

(明治八年二月)

二月小

一日、稍快、散步

二日、發熱、乞診岩佐純、門生遠藤生來診、云腸カタル

四日、乞藥岩佐医官

五

六、此間無記

十二日、稍逾<sup>(進)</sup>、曳杖門外

十三

十四、散歩、聴劇音

十五、清水干彦来

（十六日条無し）

十七、稟月給、児使

十八、自得束来

十九、二十

廿一、大雪盈尺

（二十二日条無し）

廿三、以満十五日告官

廿四日、同僚鈴木大来訪

（二十五日から二十七日までの条無し）

廿八日、晴、仲氏帰縣、寓居明日受讓

（明治八年三月）

三月大

一日、暖、近歩、聴劇

二日、大雨

三日、雨、児健之帰縣、付十五圓、徒仲氏旧寓

四日、晴、出省

此間忘却記事

十一日、會浅草傳法院、自得判歌、江上春月

黒舟に立る烟もほのくと 大江の水門の月そ霞める

十二日

十三日

十四日

十五日

十六

十七八九

二十日、在衛、腹痛、便命車帰

二十一、托宿直於濱田生、佐川北添生来、是日豚兎信書来

二十二、木村庸来、許二女於田内

二十三、新齋、納品物、使豚兎於木村氏

廿六日、嫁阿鶴于田内、予亦行

廿七日

廿八

廿九日

三十日

三十一日

明治八年大藏半歳ノ會計表共合計三千八百一万〇百六十八円ノ餘贏アリト云

政府ヨリ二十六万五千円三菱商社へ扶助金且航海習料トシテ付與セリ、亥九月報知七百八十一、九月十九日

下ノ関償金一件米人ハウス氏ノ紀事(マヤ)ヨリ訳出スル一篇文アリ、最モ関係アル文ナリ、大畧ハ償金ノ残ヲ合衆國カラ引捨ニシテヤルト云、又已前収メタ償金ヲ返納スルト云事諸新聞ナトニ記シテ日本ハ

合衆國ノ扶ニヨリ大ニ國本堅確ナルヲ得タリト云事アリ、末ニ至リ公使カ又自國ノ同僚ヲシテ強テ金ヲ擢取スルニ同意セシメタルニヨ

リ日本人ハ事ノ意表ニ出タルヲ以テ其激動ヤ却テ絶ヘス、償金ヲ強迫サレタランヨリ尚ホ一層ノ凶害ヲ来シタリ云々

此事一千八百六十四年以降已二十年間也

幾度移居巷又村 琴書庇處覺身安 如今證得蕉翁句 浅草鐘聲上野雲 偶成

(明治八年四月)

四月一日

二日

三日

四日

十六日、微陰、拉田内及田中生、觀花于飛鳥山、無事

五日

十七日、微雨、出省

六日

十八、二女疾、蓋血症子宮病也

七日

十九

八日

二十日、乙遣書於清水、返書未來

九日

廿一日、微雨、觀劇于中島座、夜歸、火欲發即消、是日婢子失所在

十日

廿二日、新霽、出省、早退食、晚拉兒飲玉蓮、訪自得邂逅鳥尾富永  
二氏

十一日、晚觀花於墨堤

十二日、出省

廿三日、出省、無事、退食、風埃

十三日、賜告祖祭

廿四日、出省、宿直、無事、夜雷雨

十四日、拜元老院大審院開院詔

廿五日、新霽、朝退省、無事、觀牡丹於淺草

十五日、朝雨、出省、写昨日勅及章程、變約清水氏婚

廿六日、晴、休暇、無事、午後同省磯村等三人見訪、遂相拉觀綠蔭  
東台、婦飲一樓共七名、夜歸、贈物於濱田八束、出平部返書

廿七日、微陰、從今日八時出二時退云、出省、収弟禮信書四月十八日發

六日、症倍昨、呻吟、終日絶食

廿八日、新霽、出省、々中置教務課

七日、猶昨、発熱頭痛不已

廿九日、出省、朝大霧

八日、似稍解、浅井医生来診

三十日、出省、是日有正院布令、云神仏各宗合併教院相立布教之儀被差止候条、自今各自可致布教、此旨教導職へ被相達事

九日、雨終日、症稍退、二女婦仲街

十日、晴、晚岩佐先生来診、云可愈、下婢来、旧婢亦来、清水生来

(明治八年五月)

十一日、晴、稍解熱

五月大

十二日

一日、新霽、休暇、西岡生等被訪、拉聴軍談、遣去婢、患者稍愈濱田生来延期

十三日

二日、晴、出省、是夕発熱感冒

十四日

三日、告官発熱、寒頭痛、舌白苔、告官

十五日

四日、症如昨、河口寛来、約貸家

十六日

五日、熱甚、岩佐門人遠藤来診、便秘投下剂、二三行下利、口中腐爛

十七日



十八日、晴、遠藤医生来診、坂崎谷来話

十九日、微陰、稍近愈、告官二週間養痾□

廿日

廿一日、晴

廿二日

廿三日

廿四日、朝雨、瀉下二三行、終日呻吟、豚兒觀劇与同僚

廿五日、晴、乙松来

廿六日、晴、休暇、坂崎生来話、晚澤田政治来、托事、与乙松適九

段坂清水氏、送单司<sup>(箱筒)</sup>於田内氏、夜三更沢田等帰、粗承諾

廿七日、晴、是日稍快、初浴、晚下利、下婢来約雇

廿八日、陰、無事

廿九日、風雨、根本真苗来訪、返上記三冊

卅日、晴、無事、沢田生来、即与乙松適清水、不遇空帰、得廿三日書信、即付返書

卅一日、晴、風、初歩街上、訪田内氏、昨信書ニ謙之帰京、近々上途ト云々、夜南ニ火アリ

(明治八年六月)

六月小

六月一日、朝霧、沢田生来、伴乙松適清水、語平健吉ヲ岩佐ニ遣ハシ藥料ヲ払ハシム、謝礼トシテ一圓ヲ呈ス、藥代猶詮議ノ由、明日分ル筈也、試歩ノ事指図一週間スヘシト云書付ヲ越タリ、潮江ヘ預ケ米四石八斗、石二八円、右代金三十八円四十錢謙之受取来ル

(上欄外)

五月念五、書中家禄奉還願、縣廳戸籍掛分廻ル筈

二日、昨ノ試歩願ヲ省ヘ出ス、小山生見訪、謙之帰自故郷、得第五月念五書

三日、微陰、近傍散策、又微ニ感冒ヲ覚フ、訪伊達翁、借禪喜集、夜微感冒ヲ覚フ

四日、晴、無事、池辺散歩、浄写、古史畧説

五日、陰、無事

六日、無事、晚中江生高橋生見訪、約講莊、中江生嚮渡洋

七日、陰、無事、豚兒辰器ヲ買、價四十七圓、三河街ニテ水薬ヲ買  
来

八日、微陰、東本省、告疾、講莊、是日田中生適福島縣

九日、無事

十日、受診柳下容橋、乞水薬、散薬

十一日、無事

十二日

十三日、書生数輩来、講莊子、凡八人

十四日、雨

十五日、陰、草古史略説

十五日、陰、快方、晚散歩

十六日、新霽、訪河口寛及近隣、是日快方、散歩、訪田内、小酌、夜無事

十七日、微陰、初出省、稟月給七十円、晚退食、収弟六月九日信書、清水ノ事スム

十八日、雨、朝出省、無事、是日宿直、宇田生頗多事、夜無事、晴月

十九日、微陰、朝退退(マ)、無事、弥明後日地方官會議開院ナリ、規式々書等廻ル、傍聽人モ每省二人宛、券紙二枚来、觀苑證十五枚受取、晚講莊子、諸生来、田内氏来談、清水之事約、贈袴地及樽魚

廿日、晴、宿直引、今日會議開式、

天皇臨御、拜鹵簿、晚散歩浅草聽劇、晚田内適本郷

廿一日、晴、暑、休暇、澤田生北海道へ行、田内媒中澤女、贈結納五十金、午後散歩兩國聽劇、晚中澤ヨリ嫁装具送來ル、二生来送祝品目六、是夜田内九段清水へ行筈也

廿二日、微陰、出省、無事、小中村赴會議、田内氏往九段坂、返結納

廿三日、陰、出省、無事、聽小中村會議況景、午後一時辭退、今日豚兒婚儀ヲ整フ、田内氏仲媒中澤氏女、東木村庸、午後八時嫁來、母兄ト小島某親類ノ由也、杯濟テ後宴、朋友蒲生等來賀、余感冒ノ氣ニテ早寢、十一時比客散

廿四日、雨、告官養痾

廿五日、雨、多事勿々、河口寬來訪、稟家賃五円

廿六日、朝雨、九時豚兒拉妻発軔、小島某亦與馳車、午前雨稍歇、午後雨歇、天欲晴、浴了午眠、碧川氏來、是日無事、被贈饌品、夜無事

廿七日、晴、出省、無事、主上觀會議、傍聽人割合アリ、余ハ廿九日ナリ、暑八十度ニ上ルト云

廿八日、晴、暑烈、出省無事、濱田ヨリ券書替へ受取ル、晚自得翁來訪、武津<sup>フカツ</sup>八千穂ヲ門生ニ入レン事ヲ托セラル、昨モ武津生來レリ、諸生例ノ莊子會、齊物論了、夜暑甚シ

廿九日、晴、暑昨ニ倍ス、今日地方會議傍聽、予ト子安氏ナリ、午前十時過始、議道路事、紛々遂決於中島信行之議、然再議擬小會議云、二時半午飯、三時後退、詳別録、夜無事

卅日、夜來微雨、出省、呈昨日地方會議事於宍戸大輔、定來月休暇日割、余則從八月十日至九月廿日休暇也、新聞規則復改正、晚身滌式、本年四月式部祭神祭式改正、得本月廿八日正治書、云廿八日午前神戶ニ泊ス、直ニ発スト云、平穩也

(明治八年七月)

七月大

一日、早起、微涼、拉家觀劇終日、暑亦烈、日晡後命車帰

二日、微陰、出省、收弟六月廿二日信書、即作報、付郵便、(挿入カ)カキカラ一丁二番須藤宿、安並生見訪、田内亦來、愛知縣平民神戶龍二來、被托三菱商社事、八木鵬添書アリ、高橋生江頼ム筈

三日、夜來雨滂沱、朝冒雨出省、晚雨歇、上島生來話

四日、陰、出省、午後退食、招魂祭ニヨルト云、吉見著書ヲ借來

五日、雨、今日元老院開院式ニ付休暇、主上臨御アリ、神戸生ニ添書遣ス、弘田生薩ヨリ帰ル、即日來訪、種々話ヲ聽ク、四五日宿ス

ト云、夜雨

六日、微陰、休暇、無事、赴浅草歌会、探題得星夕燈

今宵より七夕つめに契おきて か、けやそへむ老の燈

晩退帰、夜写書

七日、陰、微涼、暁起、看書、出省、無事、晩訪田内、島村安度  
来、余不在

八日、陰、出省

九日、雨、告疾、無事、講莊

十日、陰、無事、晩歩

十一日、晴、早起、為弘田生講論語、拉生児健吉觀博覽館、上下命  
車、多田弘義來訪、余不在、夜多田氏伴來云、貴縣人元神祇官出仕  
井手正明今何縣ノ參事トカ成タリト、尹人玉野何川トカ何トカ云シ  
ト云、知ラサルカト、予之ヲ知ラス

十二日、雨、出省、今日夕八時出十二時退出、中尾生來云、長州人  
書生入門、夜無事

十三日、晴、往青松寺試驗

十四日、暑、出省、往青松寺試驗

十五日、出省

興 十六日、暑甚、休暇、無事、不出、晚中澤氏母子來、彈絃舞曲、遣

十七日、地方會議終会ニ付休暇、与同侶四五輩浴藥湯、飲一小樓、  
暑甚殆不堪、予辭先歸

十八日、暑、出省、無事、稟月給

十九、晴、暑甚、省中遇愛媛縣令岩村高俊、談三輪田教生事

廿日、暑倍昨、然風稍癸、出省、收弟信、本月十一日

廿一日、風埃炎熱、宮崎生來話、夜散步

眠 廿二日、暑甚、朝出省、是日宿直、坂上生同宿、暑不可堪、夜不能

廿三日、晴、暑倍昨、作書信寄潮江長崎、夜無事、終日不出

廿四日、晴、暑甚、告疾、夜雨

廿五日、出省、晚三宅憲章来、元百圓之内六十圓拂来、残金四十圓  
八今月卅日限ニ屹度持来筭、谷生来話、夜訪田内

廿六日、朝、薄霧、微涼、終日不出、田中生昨帰自福島縣、小中村  
清矩来訪、夜弘田生帰自小金原

廿七日、晴、出省、暑酷、無事

廿八日、暑、出省、無事

廿九日、暑

卅日、告疾、三宅憲章来、談返金延期之事、因許之

〔欄外書込〕三宅九月念五限返筭約也

収七八九三箇月利子三圓、夜小川弘水（弘測男）来、又談返金延期、云八月廿日迄下、余則云、此金非予、伊藤氏也可縣合下、明日  
又来筭

三十一日、晴、小川弘水来、延期ヲ約許ス、因テ八月一ヶ月之利二

圓二分受取、添證書一二日中ニ廻ス筭、晚騒雨俄然、涼氣可掬、得  
弟本月廿三日信書、皆平安

（明治八年八月）

八月大

一日、夜来有雨、朝稍涼、午後暴瀉至数行、延柳本容齋診、云中  
暑、乃投散剂、夜稍止下利

二日、陰、微涼、告官、終日在蓐、然下利歇、吐宿食、頭岑々、出  
信書高知縣、報客月廿三書

三日、陰、涼氣襲人、頗不正也、中暑未愈、頭岑々、終日伏枕、高  
橋安彦来、話村越鐵善禊神敬社之事、云去歲嘗入其社、稍得其法、  
借禪録類八九冊去

四日、陰、涼雨蕭々似秋、病軀不適在蓐、柳下知之来診、夜半瀉下

五日、稍晴、朝瀉二行、後ハ歇タリ、夜半二度

六日、晴、朝三行瀉、午後不通、宮地賢一來訪、暫話、是日廣田生  
帰省、餞金二圓、夜河口氏被訪、得本月二日郷書

七日、晴、似秋天、早涼可掬、覺稍愈、終日危坐、看書、炊婢来

代、云於玉池者、夜無事、一ヶ年十圓之筈

八日、晴、朝微覺疝痛、速愈、熊胆効アルカ如シ、報本月二日弟信書、田中生へモ郷書ヲ封シ、郵送ス、夜雨豪、長崎縣へ書ヲ出ス

九日、新霽、猶養痾、在蓐、炊婢姉来、与金三圓、婢自十三日来筈、午後暴雨終日、夜風雨

十日、雨、東同僚告疾、依頼河口氏、發熱惡寒似瘧狀、延医診、是夜健吉入禊社

十一日、雨、午後頗惡寒、遂發瘧、服幾那塩丸、小中村江明日宿直ヲ托ス、夜無事、田内泊、田中生来

十二日、新霽、朝無事、覺瘧已落裁、高橋生村山生等来話、夜無事、月色奇明

十三日、晴、朝稍冷、昼暑、又乞、幾那塩服之、稻本生来、乞書暫話、晚田内夫妻来、夜婢来

十四日、晴、無事、服幾那塩二次、夜高橋氏見訪、惠梨実、与長女同唱祝詞云、既修此事五年矣、得長崎信書八月五日發

十五日、晴、朝稍快、無事、朝訪田内氏、散步、覺倦困、夜月色奇明、招田内夫妻、賞月於南楼、小川弘測男弘水来、返金五十圓、因返還證書三通、健婦自禊社、云修此五日、始得豁然、亦一奇也  
(欄外) 収五十金

十六日、微陰、小川弘水来云、高橋保造昨日ノ金ヲ借ラント欲スト、柳下容齋来診、云脚氣也、因投水藥一壘、舌頭傷爛珊瑚塗藥ヲ与へ去ル、夜河口来話、是日野口生来訪、蒲生弘亦来、見質民法撮要序文

十七日、晴、無事、遣健吉稟収月給七十圓、作報長崎書、夜月色明、無事

十八日、晴、暑、無事、午後高橋安彦来、拉兒女輩詣龜戸、聽村越氏説教、田内氏亦行、日晡婦、飲蕎麦酒、與看月於南楼

十九日、暑倍昨、無事、寄信書於崎陽、報本月五日書也、正木昇之助来話、数刻頗談<sup>ホツマフミ</sup>真秀記事、縷々可聽、尹近江人、頗信此書、因上朝欲布普於天下、蓋受滋野松岡等托云、約返書  
(欄外) 元老院十二等西小川町二丁九番地南部邸内

廿日、晴、早陰、午暑、無事、晚訪田内、微腹痛、服熊胆、即愈、夜無事

廿一日、朝陰、觀劇、得長崎八月十三日發書信、平安也、小川弘水來、又談金、淺草入用之由ニテ本郷田中中お清稽古道具渡スト云、田中直ニ來

廿二日、晴、朝出省、談秀真記事於辻村氏、因秀真記二冊ヲ取下ケ來リ、松岡時敏江廻シ、追テ再ヒ本省ヘ廻シ、元ノ如ク元老院江表ヨリ返スヘシト云、直ニ辭去、晚高橋保造來、夜無事

廿三日、晴、暑甚、無事、晚微疝痛、服熊胆、即止、終日狂風、而不涼、夜於玉池婦人來話、禊社人也

廿四日、無事、在蓐、終日寫書排遣

廿五日、暑甚、無事、出信書於長崎、報八月十三日來書也

廿六日、暑倍昨、健吉往岩崎氏、村山生來訪、談拔萃書事、長崎江先頃申遣由ヲ云謝ス、云來月中旬豊岡縣吏トナリテ彼地ニ行ト、豊岡改正ノ拳アリト云、晚無事

廿七日、暑如昨、無事、田中生明廿八日汽船歸國ト云、因寄弟書ヲ裁ス、新律合卷注釈五本一円半ニ払先ツ取置、金ヲ田中生ニ渡ス、夜謙之禊社ヨリ還ル、五日ニシテ上ル、今日午前ニ了事ト云、稍省スル処アリト云、夜例ノ几側團欒談話ス、亦可樂、鶴女來、夜訪自

得、遇洪川師

廿八日、暑甚、早起、田中生歸國、付書信、晚弘瀨或太來自國、云客月廿日倍中村弘毅來、布山ノ話ヲ聽、殆如夢、武津生來、托官國社欠員事、即東小中郵氏、夜無事、散步、途遇小中村氏

廿九日、晴、早起、無事

三十日、晴、午後三時驟雨俄然、一掃殘炎、頗快

三十一日、新霽、稍涼、出省、返神代正義、同直說、祭祀或問、初学会記、神武紀蒙訓五部、大旻古易傳一冊、談武津生事于社寺課井上真優

（明治八年九月）

九月小

一日、曉猛雨俄然、微涼、点燈看新聞、萩原生來話、云廿七日歸京、自得翁有柬、返禪喜集、大惠書二部、晚散步、訪松岡氏、不在、田内微痾、二女歸省

二日、新晴、秋冷、早起、訪河口氏、借覽新聞及書數種、午後訪松岡、不在、散步淺草聽劇音、夜扱所ヨリ左之通申來

奥宮正由

家禄奉還聞届指令書相渡候条、明三日午前第八時印形持参府廳戸籍課江本人出頭候様可相達候也

但旧藩及当時管轄廳分相渡候禄高支給印章持参可致、未夕下ケ渡無之分者書面ヲ以可申立事

八年九月二日

東京府

三日、微陰、健吉代理トシテ東京府江遣ス、印判持参ス、午前十時過指令書ヲ受取帰ル、代價ハ追而大藏省分廻次第下賜筈

四日、風雨、無事、看書排遣、改竄旧稿、使豚児張障子

五日、雨、無事

六日、霽、早高橋安彦来、促入禊社、即与生共適亀戸、村越鏡善先生入社修行、共四人也

七日、雨

八日、雨、午前十一時成就、受息長妙術、得長崎書信、云念九発

九日、新晴、午後辞亀戸

けふより八亀戸の水ニ禊して 千代萬世齡増けり

命飲於高橋生、良久話、昨八日得大阪電報、田中生書云、金子書翰

埋没、西岡生帰自郷

十日、陰、無事、雨、安積友成来、診二女子宮病、云可貼氷片其部分、乃用水一斤、二回貼之、稍去掀衝、晚省伴来、云明後十二日ヨリ九時出三時退出ト、河口氏新聞ヲ持示サル、田内来、夜無事、大雨終夜

十一日、猶雨、早起禊、河口分猫児ヲ嫁セラル、沢田誠一二書信ヲ報ス、横濱瀧澤生分書翰ヲ封贈、終日不出、夜田内来宿

十二日、雨、出省、從九時至三時、調査建白、三時退、収潮江弟書信、長崎児治書、皆平安、潮江ハ本月二日、崎陽ハ本月六日、夜月色明、一昨日ヨリ禊事ヲ修ス

十三日、曉霧、出省、檢府縣郷村社祠官掌給料建言、往来皆徒歩、夜田内氏来宿

十四日、微陰、報潮江本月二日書、付郵便、出省、又報長崎本月七日書、出省、無事、晚又開講莊会、高橋田内等来、中尾生等三人来聴、云自十九日乞講傳習録

十五日、秋陰、出省、無事、晚中澤氏来、云来十八日往福山



十六日、陰、休暇、午後訪川北洪川和尚於湯島麟祥寺、夜森某來、談中澤事

十七日、雨、是日神嘗祭、休暇、稍霽、拉兒女到淺草觀劇、晚飯於鰻草加屋婦、夜中澤母來告別、明早乘船、往福山

十八日、新霽、秋氣可掬、出省、無事

十九日、晴、秋氣可掬、出省、無事、晚為諸生講莊子

廿日、秋陰、出省、從今日婢入禊社

廿一日、陰、朝赴麟祥院、聽洪川和尚碧岩提唱、伊達自得亦來、遂與自得又訪妙心寺無學和尚、予則直辭去、晚稍晴、高橋生來、誘健吉詣龜戸、村越氏付謝金一圓、三宅憲章武田信恭來談金延期、云來年二月迄月々十金ヲ月俸ヨリ払込ト云、無拋事ナレハ承諾ス、夜無事、田内氏宿ス

廿二日、雨豪、感冒、告官、終日擁衾、看書為排悶、最讀福沢文明概論、大拍節驚奇、然亦有可論、他日余暇辨之耳、晚浴湯取汗稍快、夜雨甚

廿三日、稍晴、曉起、點燈、讀文明論、有慨然歎息、午後散步上野

觀秋光、又觀新聞於忍池上（マダ）、晚婦、夜無事

廿四日、晴、涼氣灌水、曉起讀文明論、訪伊達自得於深川安宅町六番地、暫時話、借中峯錄一冊、歸晚講莊會、三宅憲章武田信恭來、訂前日約、交換證書、収今月利子壹円、夜無事

廿五日、微雨、告書於省同僚、作昨所達弟書信之報本月十五日發、晚下婢靜歸自禊社、田內來宿

廿六日、微雨、朝赴洪川和尚碧岩錄提唱、与鳥尾小弥太望月某亦來、高橋生追予跡來會、席上禪話、最入佳境、余席上賦一絶、呈鳥尾先生

欲證箇中猶未確 恰如蚊子咬牛角 問君一滴洪川水 寢耳誠來覺不覺

午後辭歸、是日欲共遊向島、以天陰止、夜無事、雨豪

廿七日、新霽、稍暑、早起、出省、教義二関スル著書出版検査ノ件内務省ノ所轄トナル、正院伺濟來、晚退食、為諸生講傳習録、時天黑欲驟雨、四五輩來聽、夜田內宿、驟雨乍晴

廿八日、晴、冷氣襲人、出省、無事、昨教義二関スル著書出版ハ内務ノ管轄トナル伺濟、正院ヨリ來ル、因ニ例ノ愚議ヲ草ス別ニ具、鈴木代理ニ呈ス、晚弘瀨生來、拉散步上野辺

廿九日、薄陰、返上鑑札二枚、曉起、讀報知新聞、箕浦勝人中央与地方権論アリ、面白シ、又投書星野郁ノ論モ佳ナリ愛國心ノ事、政府定額人員ヲ省減スル事、追々諸処へ御鉢カ回ルヘシ云々、減額廢局免職ノ手續カ何院省ニモ及フトノ風聞也、正院ハ已ニ法制修史二局ニ減ス、カノ地震ノ説ハ曖昧也、王安石氣取テ天変不足畏ト安眠ス云々、晚為諸生講莊、夜無事、鶴女昨廿八日夕田内へ帰ル、稍快也、得長崎本月十八日書、無事也

(欄外書込)

正院ハ十五六課ヲ廢ス、有テ無益無テ事ヲ欠サス、八重九重ノムタ事ヲ省クカ節儉ノ一也

卅日、晴、秋氣爽然、曉起、草家政改定規約、従来月欲行之、冗費冗官ヲ減スル論アリ、其実下手ノ端のハ果シテ如何カ着手スルヤ試ニ策問一道ヲ作ルヘシ、西班牙國勢論尊王信教ノ愚ヲ辨ス、雨森生来、云朝鮮事アリ云々

(欄外書込)

報七百八十七

(明治八年十月)

十月一日、雨、朝赴湯島麟祥院、雨終日、不能出遊、讀養生訓、高橋生云、韓地ニテ我測量船ヲ砲撃セ(シ)ヨリ彼砲臺ヲ破リ上陸、

一村を焼、崎ニ帰ル、崎陽ヨリ電報アリト、菴家政改正令

二日、夜来暴瀉數行、稍疲、依河口氏告官、終日無事、講傳習

三日、陰、早起、參洪川和尚、見授隻手公按、得弟書九月廿二日發

(欄外書込)

江口信書アリ

四日、晴、夜来又下利、晚講莊、高橋生等来、夜散步、摩利支天街、觀草市

五日、晴、無事、不出省、午後散策淺草、聽劇音、晚帰、得弟禮書

九月卅發、云掛川街姉君少シ病氣由、西森ノ伯母モ遂ニ病死之よし訃 起来

六日、寒雨、朝往湯島、呈偶作

撫枕通宵夢未成 千思萬想此時情 頻呼小玉不回首 要認檀郎真個声

伊達自得高橋生来、期月次会、約本月廿一日、帰途買正平本論語及習字石板、小中村氏伴来、被返文明論付三卷、云大輔昨日出頭、見借修身小学二冊、夜無事

七日、陰、出省、無事、晚講傳習録

八日、陰、如芝増上寺本坊、検査教職、凡八名、午後三時散、往來命車、途買邪蘇秘密説、与齋藤別婦、武津生來

九日、晴、出省、無事、晚講莊、聽者僅三人、得児正治崎陽九月廿九日發信書、平安、有韓地事

十日、晴、夜來、暴瀉數行、曉夢、忽到崎陽、訪児正治、々々猶未起、連呼乃心聲、宛然児聲也、欲起而接遇、則夢覺、々後得一絶

三千里外夢 合眼乍相逢 莫道電機速 至誠一瞬中

告官、付崎陽信書於郵便、幕上讀曙新聞、多韓地事情、多言不可伐

時勢ノ件々論題多シ、試ニ左ニ掲ク

征韓ノ可否論 日本政府ノ會計 華士族祿ノ処置 三菱社二十五万

圓ノ効驗有無 孔教ノ得失論 華族會議ノ損益利害 党派論 急進

漸進 地租改正 廢祿

十一日、雨、朝武津生來、暫話辞去、赴湯島碧岩提唱、甚適意、伊達高橋來會、夜雨

十二日、雨、出省、無事、抄征韓論、晚講義、弘瀬生來、云布山洪水、橋落、夜無事

十三日、新霽、曉起、讀新聞於鶴人禊社、晚歸車、無事

十四日、陰、晏起、出省

日本全國ノ田三百五十一万六千零七十九町四段八畝余、租米千五百十八万八千六百石、金百三十万零九百円ニシテ海關其他各種ノ税ハ之ニ与カラスト、人口三千三百一十一万有餘ト

右明治七年戊一月三日大隈大藏卿上ル所ノ概計ナリ

同二月又本年歳計ノ概算ヲ條挙ス、内外國債金三千六百八十八万四千八百七十二円、其償却金ノ惣高二百万三千円云々

晚退食、得十月五日弟書、云本月四日掛川町姉君病卒、客月廿六日ヨリ村取り熱熾ニシテ絶食、遂不起ト、聞之愴然タリ、今日莊子會流ス、池月生來、直辞婦、中夜不眠、偶成数首

わか袖にかゝるとしもハ白露の よそに詠めしことぞ悲しき

過せし秋

枯残る老曾の森の下紅葉 かた枝は風の誘ひ尽せり

定めなきものとしらく 十月またき時雨れて散紅葉哉

きのふまでともに愛すと思ひてし あすかの紅葉はや散にけり

あすをもまたて散ぞ悲しき

や るらん

あすしらぬ飛鳥の山の夕紅葉 今日のあらしそ命なりける

十五日、晴、省へ人を遣し忌中届出す、書信も潮江長崎二所へ出す、村山生に約せし法律書抄物紙包にて豊岡縣へ遣す、運賃廿錢余と云、懸川町へハ香奠として五円切手ニ替遣す、日本橋郵便局へ頼ム、終日不出、夜月色奇明

十六日、晴、無事、宮崎生吊来、被患寒具、暫話、時事頗洵々、晩散歩門外、伊達自得来、予不在、留翰去、云念一期會湯島、夜訪田内氏

十七日、晴、曉起、中夜感吟数首、多忘了

る身ハ にし君  
 焼塩のからくも老て残りけり 雪と消行人そ恋ひしき

たら

また染めぬ紅葉を誘ふ嵐哉 時雨る、色を袖に残して

けふの

明日しらぬ飛鳥の山の夕紅葉 あらしやけふの命なるらん

常

萬代も千代もあたなり世の中の はかなきことを菊の上の露

晩稟本月々給、河口氏来云、政府大ニ洵々タリト、夜訪田内、欲湯、北風甚烈、両国通ニ火アリ、神道大綱私淑抄清書ヲ田内ニ托ス

十八日、霜霽、讀八変論有感

一、華士族可変平民、壹、家禄可変無禄、二、衆妾可変一妻、三、粉飾可変素颜、四、婦齒眉可変自然、五、兒女遊芸可変学問、六、身代限可変入授産所、七、新聞記者犯罪可改慎

午後拉婢如龜戸禊社、高橋生等先在、聴説教数人、日晡後帰、往来皆命人力、凡二十錢、夜弘瀬生来、終夜風、南ノ方火、北八丁堀ト云

十九日、陰、寒、終日無事、擁炉看書、不出、洪川弟子僧来、付和陶詩及拙歌、云廿一日期必會、夜微雨

廿日、微陰、曉起、草両忘社會規、燈油尽、又寐、因晏起

廿一日、晴、朝赴湯島會、午後一時両忘社ノ発會、々者凡十人許

題文明概論

底浅き三田の水かけ論ひ打かへすへき人さへそなき

廿二日、晴、無事、弘瀬生今日今寓居、写時勢書、健吉ヲ武市氏ニ遣ス、云在横濱

廿三日、晴、無事、訪麟祥院、返一昨日所借書

廿四日、晴、忌明二付出省、無事、退食、講莊、聽者三四名、長州僧某也、觀左府建言、即写之、夜無事、揭燈写書、是日健吉訪竹本直純於上六番丁廿七番地、不在

廿五日、微陰、出省、無事、是日宿直、福田某卜共二ス、夜微雨、小山生來省中、被托上言事

廿六日、微雨、朝八時比退省、命車、至湯島提唱会、健吉已在、晚無事

廿七日、晴、告官養疾、講傳習、聽徒六七人、夜健吉赴会於旧島原邸中、夜火南方、今日發郷書報

廿八日、陰、微恙、如昨、看書排悶、於鶴修行上ル、夜帰、有歌

廿九日、雨、午後晴、出省、無事、写有栖川親王建白、晚講莊、夜無事、雇押山某按摩

昨日今日かきねの葛そ色付ぬ あすかの山を想こそやれ

卅日、晴、出省、閑無事、晚歩返、夜雨

卅一日、陰、出省、無事、觀新聞、森久貫帰自崎陽、収兒本月廿四日書及寒具一箱玉九頭簪二

(明治八年十一月)

十月一日、晴、朝赴湯島、午後命車、又赴芝西養軒演舌会、邂逅福澤先生等、聽徒三四十名、楼上殆不能容、晚又命車帰、夜家人等觀吉原

二日、晴、出省、美日、晚講傳習録、無事、夜小雨、讀劇本遣悶

三日、陰、微雨、天長節、余以微痾不拜賀、午後拉兒女輩詣鳥越禊社、聽吉田安守等說教、晚無事、得潮江弟客月廿七日書、云本月中旬必東遊云々、落手囊日所贈五圓金

四日、晴、乳腫物痛二付告官休養、晚講莊、例書生三四人來、田内夫妻來、神道大綱抄写了、廿五葉、夜河口來話

五日、晴、同養痾在蓐、小畑生來、云十日之崎陽、暫話、神道課カ□

六日、晴、朝赴湯島碧巖会、晚訪松岡時敏、病在蓐、暫話

七日、霜霽、出省、托小畑氏贈封物於豚兒在長崎、并束尾崎氏

秋雨 鈴屋靈祭

寐覚てハ物のミ思ふ秋夜の まくらにしつく軒の玉水

同五百圓

公債証書

夜洪川和尚來訪、因請諭兒女輩、饗温鈍、雜僧宗麟隨來、与兒輩話

但 追御渡相成候筈  
右者家祿奉還仕候二付、為本資書面之通下賜正二受取候也

八日、晴、出省、無異、晚退食、無事、晚散步上野山下、夜訪田内

明治八年十月十二日

奥宮正由

九日、晴、出省、無事、草大綱私淑抄序文、示島田蕃根、且付類聚、新聞代價二分式朱十冊一冊二付六錢五厘、晚講莊夜留高橋生話、摩利支天花市買菊花數種

大久保……………

十日、朝大霧起、咫尺不弁、出省、無事、晚命車帰、久松玄亨來訪、云八月比出京寓堀留一番地吉村某家、命飲飯、夜相拉歩月於不忍池上、雨欲到乃別、渠一狂生、龐豪使酒、今稍老、実可憐遺豚兒於東京府稟家産金

十二日、新霽、宿分ヶ朝退省、健吉ヲ東京府江遣ス、資本金受取筈、謙之ヲ吉岡へ遣ス、中沢一件也、於鶴蒲團綿買二静女ヲ将テ行、風烈々、午飯後微醉、得十一月三日弟正治書、云不過十日乘船筈、竹村養子又々謙之ヲ所望之由、後家分云々、後家発狂ト云々、夜往坂田氏聴説教、遇齋藤

十一日、夜來風雨、摧殘前日所植菊花、是日宿直

十三日、晴、寒、初行灌水、出省、晚無事、夜拉二女至洪川、乞教化、月色奇明、歩月帰

高現米拾九石壹斗 八年六月十五願<sup>(日祝)</sup>、九月三日濟六ヶ年

十四日、雨、出省、無事、寒初嚴、晚講莊、高橋一人、他無聽衆

一、米百拾四石六斗

但高知縣貢相場米壹石二付、金八圓三十一錢六リン二毛八糸

内

十五日、晴、告省中、赴湯島麟祥院碧唄提唱、午後相拉觀菊於団子坂、日晡帰、得弟正治本月七日書、云布山家、約賣五十圓

金四百五拾三圓四錢六厘 現金

菊花老せぬ色を見るにつけ 我身の秋の更るをそおもふ

十六日、微陰、拉家人拝観御庭、午後三時比命車帰、是日極暖、楓葉爛紅可愛、観瀑亭尤足観、次釣橋也、庭中遇洪川無学等、夜無事

念二日、晴、出省、無事、晚退食、収兒長崎書本月十四日出、云帰京策暫可止、期来春、講傳習録、夜無事

十七日、晴、朝講中庸鬼神章、出省、稟月給七十円、晚講傳習録、聽者五人、宮地貞一郎来、深川高橋ノ下々左江元加賀丁八番地旧五味邸

念三日、晴、新嘗祭休暇、拉弟出遊、観延遠閣、訪岩崎生、暫話被命飲、植松生亦来話、夜観劇、喰鰻飯帰

十八日、晴、出省、看万法精理、即拉帰、夜田内氏帰自禊社

念四、晴、出省、無事、是日潮弟入三菱商社、從午前七時至午後五時後退食、最多忙、夜拉女兒聽劇音、亦妙感人心

十九日、晴、出省、無事

念五、新霜、結氷、寒威甚、朝出省、澄川拙三云、島地默雷等結社、請余為之長、以問題神代故事疑問

撞は鳴つかねハならぬ山寺の 鐘のつき人のなきそかなしき

夜拉婢訪洪川師、暫話辞去、帰途訪田内

廿六日、晴、早起、劇ヲ観ル、家内共田内以上八人、五円一分式朱卜四百文、夜帰

念日、新霜、出省、無事、草両忘社会約、退食三時後、夜潮江弟来自郷、団欒情話、為帰郷想

廿七日、出省、無事

念一、晴、休暇、朝拉弟赴湯島碧崑會、終日与諸彦遊、鳥尾生亦来、乞畫於洪川師、達磨自畫賛也、夜宮地生返書来

廿八日、出省、無事

散初て今日か飛鳥の夕紅葉 あらしやおのか命なるらん

廿九日、告官養痾、長崎潮江へ書出ス

今天下ノ可憂者多シ、論者ノ最モ注目スル所  
朝鮮ノ議、琉球ノ処分、○元老院開閉及職制権限、○華士族世禄ノ廢存、○民会地租改正、金融、○壅塞、○法律ヲ上進シ民権ヲ保有



セシムルノ処置也

杉本清胤木挽丁十丁四番地菊池方

卅日、夜来雨、告官療疾

時ハ滅亡ス、人ニ托シテ其債ヲ負シムルナリ

右阿斯福学院ノ日晷上ニ題スル語

亜微南ノ詩

光陰ハ造化ノ元金ナリ、能光陰ヲ用ユル者ハ必ス富ヲ致ス、天上

ノ星モ地上ノ砂モ勉強ヲ已マサレハ尽ク聚メ得ラル、也

是日木村生禊社ヨリ帰ル、健吉同伴ス、夜与弟話、団欒有情味

任汝 迷雾掩来三界城

十方世界俱縱横 非仏非心只此行 誰識龐家真樂處 団欒聚首說無

生

二女阿鶴婢靜、被授公案、皆豁然有所省、可喜々々

(明治八年十二月)

十二月一日、新齋、朝宮崎生來訪

二日、朝出省、聞一異事、信偽未分明

三日、夜来雨、出省、晚訪梅原淺川、共飲一樓、夜帰、風烈々

四日、新齋、出省

五日、出省

六日、早起、拉弟等觀劇於蛸街

七日、晴、出省、無事、晚講傳習、夜梅原淺川二生來、大館氏亦

來、稟壹円一三錢三厘

八日、雨猛、告疾、終日、晚散步、夜帰

九日、新齋、尚在養病中、散歩、晚講莊、得十一月卅日長崎兒書

信、買衾一切六円

十日、晴、寒、告疾養、買杖、夜田内等來話

十一日、晴、休暇、寒埃、拮据勿々、田内禮弟等周旋是務、買物一

切於鶴等卜謀リ大抵ニ調ふ、夜無事

(欄外書込)

西京 借家一分ヨリ三円迄、旅籠一泊上等三朱、中等式朱ト百文、

下女半季三円二分、少女ハ二円、白米ハ一升五錢八厘ヨリ六錢五リ

ン、餅ハ八錢、麦ハ四錢五リン、西陣織モノ、西洋機械ヲ用大早ワ



サト云々

十二日、霜霽、是日兼井嫁齋藤氏、日晡ト云、依テ又告官休ム、午牌吉原大火、余往觀、夜高橋氏將長女往、余等兄弟亦行、饗応亦殷、十一時比歸

十三日、出省

十四日、出省、無事、晚講莊、高橋田内等來、饗蕎麥、是日長女來浴、出長崎書

十五日、霜霽、出省、草來年奏事始、大輔上疏、官幣祭神表、夜無事、夜潮江書信アリ、無事

十六日、霜霽、暖甚、休暇、是日坂田齋藤來ル筈、供饗ハ内同士割烹、拮据勿々タリ、禮弟ハ朝ヨリ岩崎生ナトへ出、丁野生招飲ト云

即事 朝令暮改

当世の政府ニ似たる臺所 こたくとして年も暮けり

晚四時比坂田先生夫婦高橋夫妻等來客、命酒飯、入興到燭跋辞去、齋藤氏醉倒宿

十七日、寒甚、腹痛告官、終日不出

十八日、風雨、寒甚、告疾、擁爐看書、晚梅原生來訪

十九日、新霽、出省、晚會月池默雷氏、會者凡六名、論神代古事、夜命車帰、聊腹痛

念日、晴、出省

念一日、休暇早起、會湯島麟詳院<sup>（註）</sup>、會者凡十名許、各言志以遣悶、日晡帰、是日女輩亦与聞碧巖提唱、夜兼女來宿

念二、晴、出省、早退食、禮弟亦以微恙休

念三、告病休暇、無事

念四、霜晴、午後拉弟輩探梅谷中、弟詩アリ別録、予賡韻二首

念五、晴、出省、無事、表文節略、晚校吉見書、夜一時扱所伴來云、明廿六日午前九時可出東京府

念六、陰寒、春餅、家人一同之、健吉往東京府、昨廿六日報知新聞ニ治安策漢文一篇ヲ載ス、鎮西米良種良稿トアリ、随分面白シ、午後拉弟散步両国橋下、繞本庄、渡東橋、過淺草、觀梅園、喫鰻飯、歸命小車、是日倦脚、浴後便休

是日稟四十円於東京府公債證書

おもひきやくれ行としを諸共に 下谷の庵に惜しむへしとは

念七、晴、命車、出省、返官本数部于寛氏、宿直与桜井氏、々会人也、話戦争事、夜半雨

十二月終

念八、雨、帰自宿直、命小酌、是日官事始了、河口氏来云、買家移

念九、晴、休暇、無事

英雄豪傑ノ志ヲ得ハ常ニ先陣ノ際ニアリ、戦地ハ功名ヲ顕スノ劇場ニシテ輿人ノ喝采ハ功名ヨリ来ル、功名ハ衆目ノ集ル所ニシテ人望ヲ収ムルノ奇貨ナリ、ナホレオン第一世ノ雄略アルモ、戦功ニヨラスンハ安ン能仏ノ人望ヲ収テ仏帝トナリ、欧州全土ヲ蹂躪スルノ勢力ヲ有ンヤ、豊太閤ノ偉圖アルモ戦功ニヨラスンハ身草莽ヨリ起テ、忽四海ヲ席捲シ、英名を大明ニ轟クノ成績ヲ奏スヘケンヤ云々、報知八百六十九、十二月廿八日

卅日、薄陰、寒、無事、従昨朝行灌水

十方世界儘縦横、迷雾晴来乾闥城、認識龐家真楽處、団欒聚首説無生

洪川評云、宛然龐襄陽

卅一日、晴、無事、兄弟守、歳、酔後情話、亦客中一適也